



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼人 山下 開
発行人 山下 開
半年間1,000円 送料共

炭労、期手闘争妥結

炭労の期末手当闘争は、二十三円、生産奨励金七千円、福利厚生日大金不足を解消して妥結。
一人平均三十一万五千円。うち
なお定年退職者は一万六千円
一五万六千円を支給。

まず指導体制を確立 75年度の定期改選終る

三池労組は、定期総会の後をうけて実施した七十五年度定期改選によって、組合役員をはじめ組合の全機関要員を選出、またこれからの一年間をわけて創造的な展開を期してすめる、組合運動の指導体制を確立した。

まき起こそう 創造的な組合活動

組合は、七十五年度のきわめて独創的・創造的な組合活動を、それらしく積極的にすすめる意欲をもつて、このほど定期改選を終った。

これによって組合役員や組合の全機関要員がきまってきたが、なかでも重要な組合役員には次の人びとが選ばれた。(敬称は省略)

組合長	古賀 春吉	生活対策部長	宮本 文明
書記長	洪田 紀生	労働指導部長	宮本 文明
書記次長	山下 開	四山指導部長	中屋 親盛
(組織担当)		三川指導部長	百田 悟
			沖 克太郎

(組合長) 古賀 春吉
(労働担当) 同右 合志 幸男
(労働担当) 同右 合志 幸男
本所指導部長 東 実義
港務指導部長 黒田 栄吉
会計監査 猿渡 宗男
同右 中島 國博
こうして、三池労組は新年度のたたかきめを大きく歩み出した。

組合長 決意を語る

組合長は、三十日要旨のようこの決意を語った。
第一にわが国の政治・経済情勢は、自民党政府がこれまですすめてきた経済の高度成長政策がいつに破綻し、スタグフレーションという特殊な状況のなかで揺れています。

これを労働運動にとっても直面したはじめての試練で、春闘もほとんど敗北に終りました。炭労としても他の例に洩れず、期待にそぐことができません。春闘を收拾しなければならなかったのです。それぞれの組合でも内部体制を高め、労働者階級の力量を大きくするには、春闘のなかからどう教訓をひき出すか、ということが重要な問題です。炭労としても、近く開かれる中間委員会討議することにしていきます。

第二に、三池としてのたたかきを強める問題については、私たちがほとんど長期抵抗・路線を踏襲的・創造的に適応してゆくうえで重要な問題提起を行いました。私たちがこれまでたたかき弱い面ももっていた、十分な成果をあげてきたとは考えられず、多分にマンネリ化も目につけてきました。

そのマンネリ化からいかに脱却するか、長期抵抗・路線の正しい認識のうえに立って、大衆の間から創意性・独自性をひき出し、それを発揮するため、執行部はもちろんだこと、職場の中堅活動家も一丸となつての努力を求められていります。具体的には、このたびの討議するよう考えて

秋闘に積極方針で 炭労大会

国民の反撃激化の中で



近代的な四山堅坑のやぐら。この下の地底で事故が

組合、重大事故で抗議

四山で落盤、三川で人車暴走

二十八日と二十九日の二日に連続して、あややという重大事故が重なって発生、坑内で働く人びとを驚かす事故が起きた。一つは四山鉱(加藤三鉱長)で起きた落盤のため六人の労働者(職員一人と新労組員五人)がその奥に閉じこめられ、一つは三川鉱(前村正池鉱長)で無人人車がいきなり坑底を突っ走った。

ただちに三池労組は保安委員会との席で、会社に対して嚴重抗議したが、四山指導部の三、五、六職場分會でもかわりがわり職制に抗議した。

四山鉱の場合
二十八日午後十一時四十五分ごろ、四山鉱五百二十メートル坑道の上層五十脚東二(坑口から六

千七百七メートル付近)で、坑道を埋めて約七メートルにもわたる落盤発生。機械工の佐藤春海さん(四十九歳・新労組員)ら六人が、その奥に閉じこめられてしまった。

三川鉱の場合
三川鉱で無人人車が突っ走ったのは、二十九日四時過ぎ。三百五十メートル坑道の基点の坑底から、詰ゆき(残業者)迎えの十両編成の人車が発車したのが四時十三分だった。

途中先頭電車(機関車)の一施設がシフトを起し発火。火勢でいきなり機関車からはじき飛ばされてしまった運転手。人車はそのまま走りつづけた。

さいわい後に残った車掌の機転と、命がけの働きで、なんと千五百メートルも突っ走ったところであやうく人車を停車させることができたものの、これとて大災害に

さ災害をひき起こしていたことだ。すでに発行した組合のヒラが指摘している通り、右の事故は明らかに保安上の欠陥から起きたことであるが、さらに問題は、会社がこれほどの事故をひき起こしながら関係方面への連絡をひきおしたること。事故発生後、三池労組へ三時間後、福岡山保安監督局に対しては六時間後、さらに宮浦・三山面鉱などへの連絡はいたっては八時間後だった。

坑内では必死の救助作業が血まなこですんでいるのに、他方でこの怠慢は許されるわけがなく、とかく重大災害を頻発させて

直結する恐れいできごとだ。三川指導部は、明らかに設備などを問題にして抗議したが、労働者にはかなり犠牲を強いりかねない片手落ちな右炭見直し政策の強行に目のない会社によって、また恐るべき状態がくり出されつつあり、この際特に警告しておく。

「運搬災害絶滅週間」や、「保安給点検月間」の実施をめざし、さらに新炭政策のスタートと同時に不可欠な深部開発対策を強化し、三池炭鉱の高層問題や夕張新鉱の深部開発問題なども含め、そ

そのための、資金カンパを実施する。ともあれ、スタグフレーション(インフレと不況の同時進行)は依然として横行している。したがって、合理化攻撃が、いま以上に労働者を苦しめることが予測される。三木政府の反動的姿勢はますます強まり、合理化・社会保障のたたかき、国民の総意でもあらざるだろう。この動きのなかで、秋はたたかきが激化する。このときどうするかの。

もう一度投入し、成果を積み重ねることが重要だ。私たちの政治勢力の拡大強化に、労働者の社会的向上は基本的にはあり得ない。まして私たちがその石炭政策の実現、社会党提出にもとづく石炭政策関係法案の帰趨も、それにかかっています。